

日 薬 情 発 第 195 号
令 和 8 年 2 月 26 日

都道府県薬剤師会担当役員殿

日 本 薬 剤 師 会
副 会 長 川 上 純 一

「重篤副作用疾患別対応マニュアル」及び紹介ポスターの
ホームページ掲載について

平素より、本会会務に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

標記について、厚生労働省医薬局医薬安全対策課より、別添のとおり連絡がありましたのでお知らせいたします。

今般、「アナフィラキシー」「血管性浮腫（非ステロイド性抗炎症薬によらないもの）」「非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs、解熱鎮痛薬）によるじんま疹/血管性浮腫」「緑内障」「角膜混濁」「間質性肺炎（肺臓炎、胞隔炎、肺線維症）」に関して「重篤副作用疾患別対応マニュアル」を改定し、さらに「薬剤関連顎骨壊死・顎骨骨髓炎」の紹介ポスターを作成したとのことです。

服薬指導時にこれら資材を活用していただき、さらに、薬局待合室等に紹介ポスターを掲示することにより、周知にご協力ください。

会務ご多用のところ恐縮ながら、貴会会員にご周知下さるようお願い申し上げます。

<厚生労働省ホームページURL>

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/topics/tp061122-1.html

<独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページURL>

<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/adr-info/manuals-for-hc-pro/0001.html>

事 務 連 絡
令和 8 年 2 月 26 日

公益社団法人日本薬剤師会 御中

厚生労働省医薬局医薬安全対策課

「重篤副作用疾患別対応マニュアル」及び紹介ポスターの
ホームページ掲載について

平素より厚生労働行政の推進にご協力を賜り感謝申し上げます。

「重篤副作用疾患別対応マニュアル」は、平成 17 年度から、重篤度等から判断して必要性の高いと考えられる副作用について、患者及び臨床現場の医師、薬剤師等が活用する治療法、判別法等を包括的にまとめたものとして作成を開始しました。また、一層の活用を推進するため、関係学会等の協力を得ながら、最新の知見を踏まえた改定・更新や新規作成のほか、本マニュアルの普及啓発に向けた取り組みを実施しています。

今般、下記のとおり「重篤副作用疾患別対応マニュアル」の改定及び紹介ポスターの作成を行い、ホームページに掲載しましたので、ご了知の上、周知方ご配慮願います。

記

1. 次の「重篤副作用疾患別対応マニュアル」を改定したこと。
 - (1) アナフィラキシー
 - (2) 血管性浮腫（非ステロイド性抗炎症薬によらないもの）
 - (3) 非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs、解熱鎮痛薬）によるじんま疹/
血管性浮腫
 - (4) 緑内障
 - (5) 角膜混濁
 - (6) 間質性肺炎（肺臓炎、胞隔炎、肺線維症）

2. 次の「重篤副作用疾患別対応マニュアル」紹介ポスターを作成したこと。
・薬剤関連顎骨壊死・顎骨骨髓炎

3. 改定を行った「重篤副作用疾患別対応マニュアル」及び紹介ポスターは、次のホームページに掲載したこと。

厚生労働省ホームページ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/iyakuhin/topics/tp061122-1.html

独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページ

<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/adr-info/manuals-for-hc-pro/0001.html>

医・歯・薬連携で

薬剤関連顎骨壊死・

顎骨骨髓炎を予防しよう!



— 薬剤関連顎骨壊死・顎骨骨髓炎対応マニュアル 令和7年改定における2つの留意点 (27頁) —

骨吸収抑制薬

(ビスホスホネート製剤とデノスマブ製剤) を
使用中の侵襲的歯科治療



定期的歯科受診・治療メリットと
発症リスクを勧案

悪い歯は
放置しない

抜歯前の低用量の 骨吸収抑制薬の取り扱い

原疾患の
治療も大切

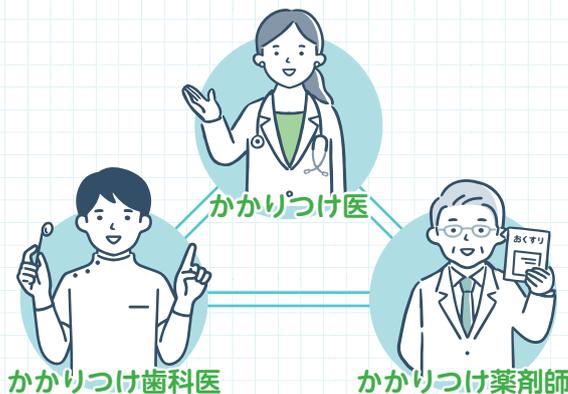


原則、予防的な休薬をせずに抜歯を提案
ハイリスク症例では、
ごく短期間の休薬を完全に否定しない

薬剤関連顎骨壊死・顎骨骨髓炎予防のポイント

医・歯・薬連携

- ✓ 正しい知識の説明（口腔ケア）と受診勧奨
- ✓ 骨吸収抑制薬開始前・後の定期的歯科受診
（画像診断が重要）
- ✓ 情報共有
（治療薬等の内容、症状、口腔管理など）



重篤副作用疾患別対応マニュアルを日常業務の中で活用してみよう!



“歯やあごが痛い”、“歯のぐらつき”、
“唇の周りがしびれる”

などの症状に気づいたら医師、歯科医師、
薬剤師等に相談するように患者支援

重篤副作用疾患別対応
マニュアルはこちらから
ご覧いただけます。

